

## 2 分野別計画

### (1) 歩いて暮らせるまちづくり構想

#### ア 構想の概要

「歩いて暮らせるまちづくり」の取組は、基本計画が掲げる「歩くまち・京都」の推進をはじめ、市が重点的に取組を進めている「パートナーシップのまちづくり」や、職住共存地区における「都心再生のまちづくり」など、様々な取組と関わりをもつ複合的な取組として位置付けられます。

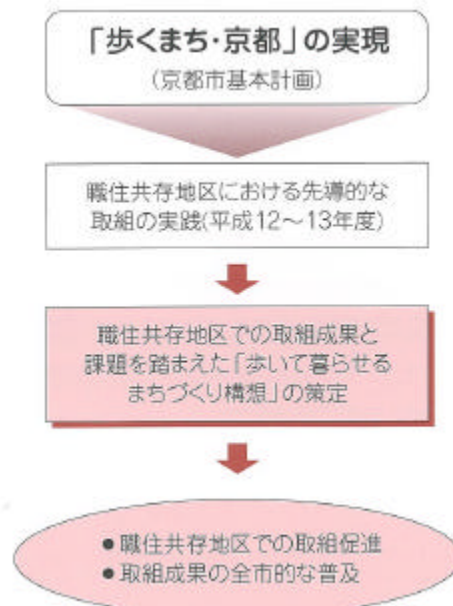
以上のような背景・位置付けのもと、これまでの取組成果を踏まえて、

**職住共存地区（重点地区）における「歩いて暮らせるまちづくり」の取組の促進**

職住共存地区（重点地区）での取組成果の全市的な普及を図るため、平成14年に策定されたものです。

対象地区は、職住共存地区（重点地区）の東ブロックに含まれます。第5章において、東ブロックの地区特性・近年のまちづくりの動き・今後のまちづくりの方向性が示されています。

#### 【参考1】 構想の位置づけ（イメージ）

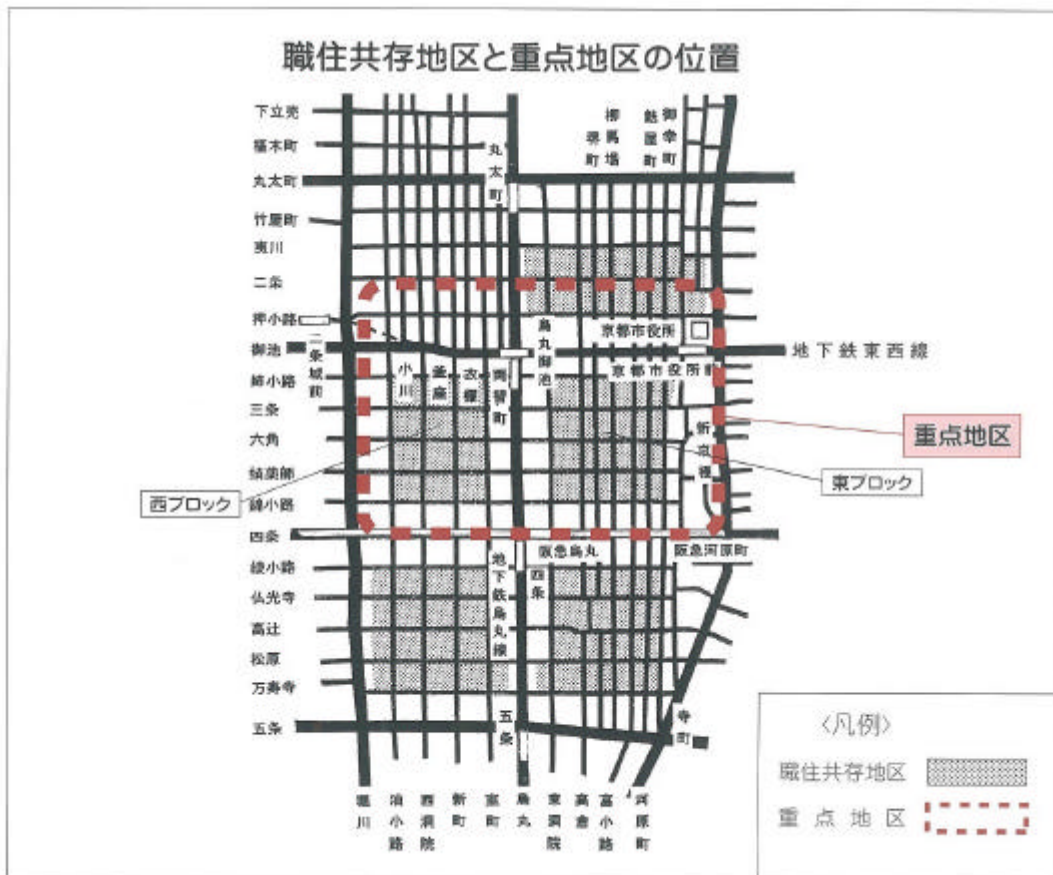


出典：歩いて暮らせるまちづくり構想（そのp2）

【参考2】

(職住共存地区及び重点地区の位置と概要)

	位置	概要
職住共存地区	都心部の幹線街路に囲まれた内部地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職住共存の形態を維持しながら、長らく京都の都市活力を中心となって支えてきた地区。</li> <li>● 歩いて暮らせるまちづくりに着目し、人々の日常生活を大切にしながら、人々の交流や生活文化や都市産業の活性化に向けた取組を進めていく気運が高まっている。</li> </ul>
重点地区	概ね、二条通・河原町通・四条通・堀川通に囲まれた地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歩いて暮らせる街づくり推進会議の設立以後、取組の実践を積み重ねてきた地域。</li> <li>● 烏丸通を挟んで東・西2つのブロックで構成。概ね8つの元学区（城巽、本能、龍池、明倫、初音、日影、柳池、生祥）からなる。</li> </ul>



出典：歩いて暮らせるまちづくり構想 (p3)

## イ 構想の体系

は、対象地域の直接的な記述を含む項目。 は、対象地域を含む全市的な記述を含む項目。

第1章 これまでの取組経過と本構想の位置付け

第2章 重点地区における取組と進め方

第3章 城撰・本能地区（西ブロック）の取組

第4章 龍池・明倫地区（西ブロック）の取組

**第5章 都心商業地区（東ブロック）の取組**

第6章 重点地区における取組の推進体制

第7章 他地域での取組の展開に向けて

## ウ 第5章 「都心商業地区（東ブロック）の取組」の概要

### （ア）地区の特性

本地区は、京都都心部最大の商業・業務の集積地として発展してきました。錦市場や寺町通など個性豊かな商店街、代々伝わる老舗、魅力あふれる個店などが競い合い、まちの賑わいを高めてきました。一方、姉小路界隈や押小路界隈では、風格のある町家が立ち並び落ち着いた住環境が形成されています。

しかし、近年、職住一体型の商店が減る傾向にあり、かわって、外部の資本による商店が増加する傾向にあります。職と住が分離したことにより、夜間人口が減少し、夜間の治安面での不安が高まるとともに、地域の自治を担う人材の確保が難しくなりつつあります。また、住居専用のマンションが増加するなど、商業・業務機能が弱まりつつあります。

このような中、大阪や神戸などとの都市間競争や、市内における商業拠点の分散などにより、都心部とはいえ、安定して集客力を確保するためには、さらなるまちの賑わいづくりが求められるようになっていきます。しかしながら、幹線道路の交通渋滞や、幹線歩道や細街路における交通混雑など、楽しくまちを回遊できる環境とはなっていないのが現状です。これらの課題は、商業をはじめ交通、地域コミュニティなど様々な問題が絡み合っていることから、個別の対応では解決を図ることが難しい状況にあります。

(イ) 近年のまちづくりの動き

姉小路界隈を考える会の取組

主な取組 行灯による通り空間の演出  
地域共生の土地利用検討会

京の三条まちづくり協議会の取組

主な取組 三条通歩車共存道路の整備  
三条通の一部区間車両通行止め

商店街の取組

主な取組 まちなかアートフェスティバル  
錦市場(食)のフェスティバル  
コンパッソ寺町

中東活性化委員会の取組

主な取組 100円循環バスの利用促進  
がんばれ新世紀の公共交通

(ウ) 今後のまちづくりの方向性

～「再び訪れたいくなる賑わいと安らぎのあるまち」を目指して～

この地区が、京都最大の商業・業務集積地としての競争力を今後とも維持していくためには、商業をはじめ交通、地域コミュニティなど複雑に絡み合っている様々な問題・課題を解決し、まちの魅力を高めていくことが求められます。

安心な地域づくりを基本としつつ、来訪者が再び訪れたいくなるような賑わいと安らぎのあるまちづくりを進めていくため、歩いて暮らせる街づくり推進会議の取組のなかで、活発に取り組まれてきた「賑わいづくり」と「交通問題」に関する活動を発展させ、以下の事項に重点的に取り組みます。

人を呼び込む仕掛けづくり

まちなかには、歴史・文化や伝統産業の技など、魅力的な地域資源が数多くありますが、住民や来訪者などが、その魅力をじっくりと見たり感じたりする機会や場所はあまりありません。一方、姉小路通では、住民自ら建築協定締結に向けた取組を進めるなど、地域に受け継がれた個性的な雰囲気を受け継ぎようとする取組が進められています。「住んで良かった」、「来て見て楽しかった」という声があふれるまちにするため、人を呼び込む仕掛けづくりを進めていきます。

まちなか交通問題への対応

まちなかの安心・賑わいを創出するため、まちなかにおける「歩行者優先」の原則を明らかにするとともに、細街路での通過交通の抑制や幹線街路での歩道空間の充実、路上放置自転車等の障害物の排除などにより歩行環境の改善を

進めます。

また、全市的な交通体系とも連携しながら、まちなかにふさわしい交通体系のあり方とその実現方策についての検討を進めていきます。

#### 「安心・賑わいフォーラム」(仮称)の設置

この地区では、従来から元学区を中心に活発な地域活動が展開されたり、個性的な通りや商店街の活動が地域の魅力となっています。近年、まちづくりの様々な場面で、具体的に地域と行政とがそれぞれの力を発揮し、協力しあう関係がはぐくまれてきています。

この蓄積を発展的に次につなげていくため、まちの安心や賑わいを高めていくための方策について、地域住民や商業者、市民団体、専門家、行政などの様々な関係者が意見交換し情報を交流する場として、「安心・賑わいフォーラム」(仮称)を設置します。

また、まちなかには、京町家を改造した店舗や伝統的な老舗など、数多くの魅力的な店舗がありますが、これらの個々の店舗がまちづくりに参画する機会は今現在のところ殆どありません。そこで、「歩いて暮らせる街づくり推進会議」での協賛店舗などの協力を得ながら、個店ネットワークの形成を進め、個々の店舗の意向をまちづくりに反映させる仕組みづくりを進めます。